

## 令和5年度 横浜市学力・学習状況調査 結果・今後の課題

### 学力

#### ○国語

おおむねどの学年も、漢字の正答率が市平均を上回る高い結果となりました。その一方で、語句の意味や、修飾語や助詞の役割などを問う問題で市の平均を大きく下回りました。またどの学年も物語、説明文の内容を捉えられているかを問う問題で市の平均を下回りました。読書や文章を読むことを通して、読む力を伸ばしたり、生活の中でも使える語句を増やしたりする必要があります。

#### ○社会(4年生以上)

他の学校と比べ、「資料から読み取って理解する」という項目で、市の平均をやや下回っている傾向がありました。資料を読み取り、それをもとに問題を解いていく力が必要です。また、社会科で扱う米作りや漁業、地域などが人々の生活とどのように関わってきたのか、どのように変化してきたのか、なぜ変化したのか、といったこと等を考える力を伸ばしていく必要があります。

#### ○算数

他の学校に比べおおむねどの学年も、算数の基礎的な力を問う問題で得点することができていない傾向がありました。また、上山小学校全体の傾向として、式の計算の問題、平面図形や空間図形での正答率が低いことが分かりました。まず、各単元の基礎となる力を伸ばすことで、「思考・判断・表現」の問題を解くための力をつけていく必要があります。

#### ○理科(4年生以上)

どの学年も、水や空気、金属を温度による変化などに関わる「粒子」の領域で、市の平均の正答率を上回っていました。天気や水の働きなど自然に関わる「地球」の領域で、市の平均を大きく下回りました。また、「観察の結果からわかることを表現することができる」などの実験の結果から分かることを問う問題でも、正答率が低い傾向がありました。仮説をたて、実験の意味をよく理解する力を伸ばしていく必要があります。

#### ○外国語(6年生のみ実施)

今年度より新たに教科として加わった外国語では、「知識・技能」の面で、市の平均を上回りました。「思考・判断・表現」では、平均を下回りました。継続して、外国語に慣れ親しみ、分からないと感じてもあきらめずに進んで聞いたり、話したり、読んだり、書いたりしようとする力を育てていきます。

### 学習意識

上山小学校の結果全体を見て、どの教科でも学習意欲が高く、友達と協働して学習を進めることが好きということ分かりました。授業の中でも、基礎の力を大切にしながら、みんな課題を解決し、よりよい考えを見つけるといった経験を積みながら、さらに学習意識を高めていくことが今後の課題です。また、総合的な学習の時間の学習意識が全市と比べ、低いことが分かりました。自分たちで課題を見つけ、解決していく充実した総合的な学習の時間を目指します。

### 生活意識

ほとんどの学年で、学習時間と読書時間の長さが課題として挙がりました。学習時間の長さだけで比べられないところがありますが、自ら進んで学習したり集中して学習に取り組めたりできるように、今後も学校と家庭がさらに連携していくことが大切です。また上山小学校全体の国語の結果からみても分かる通り、文章を正確に読み取ったり、語彙力つけたりするためにも、読書に親しむことが必要と考えられます。「自分からあいさつする」ことも下回っていたことから、今後も更に進んであいさつができるように、これまで以上に学校でも児童に働きかけていきます。